

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 832 号	氏名	吉田 浩二
学位審査委員	主 査 上谷 雅孝 副 査 森内 浩幸 副 査 中根 秀之		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、2011 年 3 月の福島第 1 原子力発電所の事故以降の住民の放射線被ばくによる健康影響への関心の変化をみるために、福島県内病院における事故前後の放射線検査数の変動を調査し、住民の放射線リスク認知を検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 2008 年 4 月から 2014 年 3 月の間に福島県立医科大学附属病院で実施した外来の画像検査データを収集し、各検査、各年齢相における検査数の比率を事故前後で比較した。特に 10 歳未満のグループでは頭部 CT、腹部 CT、頭部 MRI、腹部超音波検査に分けて解析した。これらの研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、事故前後における全体的な検査比率の有意な増減はみられなかったが、10 歳未満の患児において、CT 検査、一般 X 線検査比率の減少がみられた。これに対して、放射線被ばくを伴わない MRI 検査の有意な減少はなく、超音波検査は有意に増加していた。これは事故後の放射線被ばくによる健康影響への不安が関与していると考えられ、医療現場において放射線検査のリスクとベネフィットを適切に伝えることが重要と考えられた。放射線リスクコミュニケーションの重要性を示した研究であり、今後の発展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は放射線リスクコミュニケーション研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			